

異常気象に耐えられるイネ作りを！！ 千代田化成の瞬発力でサポート！！

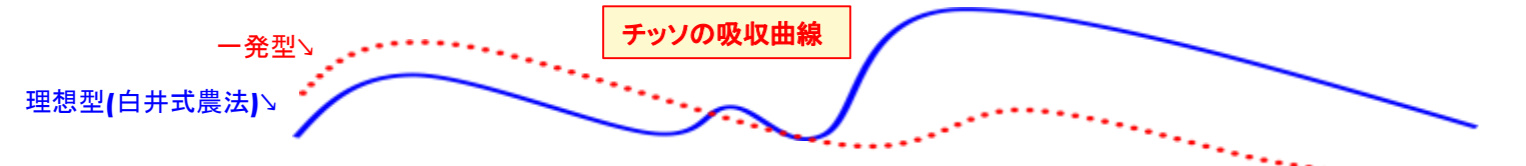
2023年度の夏(6~8月)は平均気温が観測史上最高となり最も暑い夏となりました。その影響を大きく受け米の一等米比率も過去最低となりました。

今後も異常気象は続くことが予想されます。

異常気象に強いイネを作るためにはケイ酸資材や土壌改良資材を使うことはもちろんですが、**同時にしっかりと根を張らせて丈夫な体をつくることも重要**となります。

速効性に優れた千代田化成で丈夫なイネ作りをサポートします。

千代田化成の使用ポイントをまとめましたので是非ご参考ください。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
生育ステージ	育苗期	活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期 穂ばらみ期	出穂期	登熟期	収穫
出穂前後日数				-40	-25 -18 -10	0(出穂日)	+10	+40

ポイント① 田植え直前

活着のための肥料を速効サポート！

田植え0~3日前

育苗箱1枚あたり5~7g

※施肥後、0.5ℓ/箱程度の水で葉に付着した肥料を洗い流します。

千代田化成「弁当肥」を実施

● 田植え11日後の抜き取り調査

弁当肥あり 葉色26 無処理 葉色22

「弁当肥あり」は根量も増加して活着も良好です。安定した初期生育を確保しています。



丈夫なイネを作るためには**いかに早く根を張らせるか**が重要です。すぐ溶け、速効性がある千代田化成は田植え直後の活着の確保に適した肥料です。丈夫なイネにするためのスタートダッシュをかけましょう。

ポイント② 田植え後7~10日

分けつのための肥料を速効サポート！

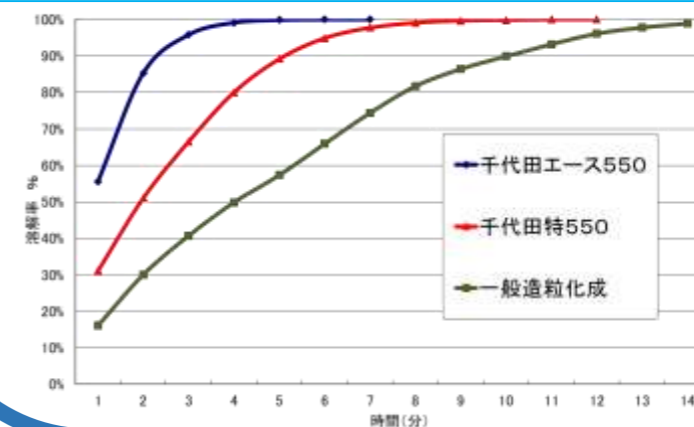
田植え後7~10日後に千代田エースを10kg/10a

田植え後、活着や分けつが進まずイネが大きくなるときはないでしょうか？原因は低温やガス障害で養分が吸えていないからかもしれません。

低温のときはイネの活性が低くなり肥料を吸いにくくなるうえにリン酸が効きにくくなります。分けつにはチッソはもちろんです**が初期にリン酸を効かせることが極めて重要**となります。千代田化成はすぐ溶け、拡散性に優れており素早く吸収されます。

田植え後に千代田エースを施肥し、分けつを促し、素早く丈夫なイネを作りましょう。

● 粒状肥料の水中溶解曲線(肥料1g/200cc脱塩水、攪拌条件、27℃)



● 施肥6日後の溶解性比較



「千代田エース550」

「一般造粒化成」

ポイント③ 出穂25~18日前

米の品質向上！収量アップの肥料を速効サポート！！

出穂25~18日前にらくらく千代田を5~20kg/10a流し込み！

夜間の気温が高いとイネは活性が高くなり多くのでんぷんを消費してしまいます。

その結果栄養不足となり米の品質に悪影響となります。また、中干の間は水分が少なく養分を吸収しづらくなっているため、出穂前は肥料不足気味となり速効性の肥料が求められます。



らくらく施肥の詳しい情報は「らくらく施肥法 かんたんガイドブック」をご覧ください。(右記QRコードから、冊子を読むことができます)

